

取材をお受けする際に多く寄せられた質問をまとめています

Q1 「福祉ネイリスト」とは何でしょうか？

主に高齢者・病気や障害を抱えている方に対して行うネイルのことで、一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会の認定制度です。認定校によって費用や詳細が異なるようですので詳細は一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会にお問い合わせ願います。

Q2 代表の松本さん、副代表の岩田さんはいつ「福祉ネイリスト」を取得されたのでしょうか？知ったきっかけや取得しようと思ったきっかけは？

松本、岩田は中学校の同級生で、ともに2019年に取得しました。

2人とも、漠然と「人のためになることがしたい」という思いがありました。

松本は以前より知人「福祉ネイリスト」になることを勧められていましたが、これまで高齢者との関りがなかったので断っていました。岩田は以前から高齢者福祉に興味を持っていた為、この機会に2人で「福祉ネイリスト」なるものを学んでみることにしました。2人とも、長年セルフジェルネイルを楽しんでいた為、趣味や特技が活かせるなと思ったこともきっかけのひとつです。

Q3 また、「福祉ネイル」を行うボランティアチーム「ガンチー」も立ち上げられたそうですが、こちらは、いつ立ち上げられたのでしょうか？

2020年4月です。

Q4 団体名の「ガンチー」とは、どのような意味が込められているのでしょうか？

施設によっては、直接の介護に関わる費用以外を捻出できない、または家族から支払えないという方もたくさんいらっしゃることを感じています。それらの理由から「支払えないから見ている」ということは避けたいとの思いです。施術中によく幼少時代や学生時代を思い出されてお話をされる方が多いのですが、その中で「貧しくてお稽古事に通えず、通っている友人が羨ましかった」「給食費が払えず食べている友人を見ていた」とおっしゃる方もいらっしゃいました。私たちが訪問することで二度とそんな思いをしてほしくないと思うようになりました。そのような理由で笑顔の機会に区別をつけたくないという思いからボランティアで無償により活動することを決めたのです。私たちは、岩田の音読みガン、(松本)知美の音読みチーを組み合わせ、差別や貧困をなくすために奔走したと言われているガンジーの意思と重なるものがあるとして団体名を「ガンチー」としました。ちなみに、ガンジーは幼少時代不良少年だったそうです。ボランティアといえは「崇高なこと」「聖人君主」のように受け止められることが多々ありますが、そんなことはなく、私たちのような一般人、しいては完璧でもなければ欠陥もたくさんあるような人間でもできることがある、一歩踏み出す勇気やちょっとしたきっかけでできるということを伝えたいです。

Q5 メンバーは何人で構成されているのでしょうか？

施術スタッフは福祉ネイリストディプロマ取得者のみですが、高い介護知識を備えた者や運搬が必要な時の車両協力、施術中の様子を撮影するカメラスタッフ、デザイン相談

や技術指導を担当してくれる1級ネイリストなど色々なメンバーが居ります。産休や育休で活動を休んでいるメンバーも居りますが、10名程度のメンバーで構成しています
(2021年現在)

Q6 **そもそも、チームを立ち上げようと思ったのは、どのようなきっかけだったのでしょうか？**

福祉ネイリストになってから自治体が運営する地元デイサービスに訪問した際の反応を受けて、これは一人でも多くの方に体験していただき、広めていかないといけないと思いました。しかし、拠点や訪問先を拡大するには、費用の問題が発生し、メンバーがすべてを負担することは長く継続できません。そのため「ご支援いただけるところから頂き、それを地域に還元するお手伝いをさせていただく」ことを考えました。ボランティアには様々な助成金制度があり、特に民間の財団様には私たちのような法人格を持たない団体にも助成していただけるものが複数あることを知りました。これらを活用させていただくことで笑顔が増えるのであればと申請するにあたり個人ではなく団体での応募が必要だったため、任意団体「ハンド&ネイルケアボランティアチーム ガンチー」を立ち上げました。

Q7 **さて、「ガンチー」として、これまでどのような活動を行ってきているのでしょうか？**

自治体や民間が運営するデイサービスや高齢者施設等への訪問事業が主な活動です。も

ちろん体制が整えば障がい者施設等へも訪問予定です。2021年からは前例のない警察と協力した事業をはじめました。京都府警本部生活安全課から発行される「地域安全ニュース」を訪問先で配布し注意を呼びかける、また下京警察署の「下京安心安全スマイルアップ隊」に委嘱され、高齢者を事故や犯罪から守るための講演に同行しハンド＆ネイルケアを提供させていただいています。講演だけでなく、記憶やネイルが残ることにより強い抑止力になっているとご好評いただいています。まだまだ知られていないこの活動を認知していただくためにイベントなどに出店協力させていただき広報活動や地域とのつながり活動も図っています。

立ち上げ当初は新型コロナウイルスが猛威を振るっていて、先が見通せませんでした。しかし、それが気持ちの切り替えに有効で活動を再開後のための「助成金申請」や「ボランティア団体会計知識の勉強」などの活動再開へ向けた準備期間に充てることができました。幸い、私たちもこれまでネイル関係とは別の一般企業や法人などに勤めていたこともあり、それらの社会経験を生かすことができました。例えば、松本はスポーツ関係での企画・広報・運営の経験や、簿記資格。岩田は現在も正社員として企業の総務に従事し、障がい者雇用などにも携わっているため福祉関係の全体的な知識を備えています。その他メンバーも様々な業種や経験を活かしガンチーの活動が成り立っています。ちなみにホームページも「京都で頑張る人を応援したい」と京都ホームページ工房さんが無償で作っていただきました。

Q8 ネイルケアを施すと、皆さんどのような感想をおっしゃいますか？

「亡くなった夫に見せたい」「孫に自慢しよう！」など、施術するだけで気持ちが若返り、学生時代に戻ったようになられます。ご本人さまだけでなく、普段介護をされているご家族や施設スタッフさんが大変喜んでいただけることも嬉しいです。「今まで見たことのない顔が見られた」とおっしゃっていただけます。

Q9 また、松本さんらにとっては、どのような手応えを感じることができますか？

普段あまり感情を出さない方（笑わない、話さない）が施術を通して、別人のように笑顔になり、周囲と積極的にコミュニケーションを図り、外出意欲が出たなど、こちらの期待以上の反応をいただけることはこの活動を通して珍しいことではありません。福祉ネイルは福祉に関わる全ての人の為のものとして捉え、この活動を広めることで昨今問題となっている認知症や介護問題全体（介護を必要とする高齢者の増加、介護職員の人手不足、老老介護や認認介護、要介護者への虐待等）への効果もあるのではないかと感じています。

Q10 今後は、この「ガンチー」の活動をどのように発展させていきたいと思っておられますか？

京都市内、しいては京都府内へと拡大、拡充を図りたいと思っています。私たちのように趣味や特技を活かして、ボランティア活動を行う人が増えることを期待しています。また、私たちの活動をモデルケースとして日本全国にこの活動が広がれば高齢者を取り

巻く様々な課題に関する解決の一助となるのではないかと考えています。そして一輪でも多くの笑顔の花が開くことを願っています。

Q11 そのためには、どういった協力が必要なのでしょう？

もちろん、今のメンバーだけでは府内、市内をカバーしきれませんので、なり手や協力者を増やすことが急務と思っています。現在は国内の財団様からの支援と自己負担、地道な寄付活動で運営していますが、資金面の確保が1番の課題です。理想としましては、地元・京都の個人様や団体様、企業様からご支援を賜り、それぞれの地域に還元することが理想です。当団体も現在までにご支援いただきました団体様には活動時や取材時に着用するエプロンに団体名を掲示させていただき活動に支援いただいた周知に努めております。皆様からのあたたかいご支援をお待ちしています。

Q12 お問い合わせ先を教えてください。

インスタグラム、フェイスブックのDMから、または ganchii2020@gmail.com にお願います。ホームページのお問い合わせフォームからも受け付けています。

※メンバーのほぼ全員が仕事を持つビジネスパーソンで構成されています。日中の電話対応が難しいこともありますので、メールでのお問い合わせにご協力ください。